市長から 市民のみなさんへ 41

山陽小野田市長　白井博文

少子化対策について

1月8日に成人式が文化会館で行われ，本市でも715人の新成人が大人の仲間入りをしました。私も出席させていただきましたが，新しいスーツ，色とりどりの晴れ着に身を包んだ若人から湧き上がってくる将来への希望にすがすがしさを覚えるとともに，少しうらやましくも感じました。生まれ育ったこのまちを離れ，日本全国，中には世界に羽ばたいていく方もいらっしゃることでしょう。陰になり日なたになり，今まで支えてくれた親御さんへの感謝の気持ちを忘れず，またこのまちで培ってきた人間性をいかんなく発揮し，ご活躍されることをお祈り申し上げます。

さて，門出のおめでたい話に関連することで，少々水を差すようなことになるかもしれませんが，最近，私の頭の中に大きな懸案事項として頭をもたげはじめたのが本市での少子化の問題です。きっかけは，昨年12月の議会一般質問に対する回答を内部で準備する時に，教育委員会から提出された衝撃的な資料を目にしたことからです（下記表）。この資料によると，平成12年から平成23年の11年間に，小学校の児童数が，小野田地区に例えると平成18年度の有帆小，高泊小をあわせた児童数，山陽地区で例えると出合小，埴生小をあわせた数ほど減少するというものです。中学校においても同様で，小野田地区では高千帆中，山陽地区では厚狭中と埴生中をあわせた数の生徒の減少が見込まれています。まさに"激減"という表現をせざるを得ないほど事態は深刻な局面を迎えているわけです。

市立小・中学校児童・生徒数の変遷

	平成12	平成23	減少数
小学校	3,948	3,488	460
中学校	2,287	1,718	569
合計	6,235	5,206	1,029

【参考】

有帆小	(271)	＋	高泊小	(197)	＝	468
出合小	(224)	＋	埴生小	(235)	＝	459
			高千帆中	(522)	＝	522
厚狭中	(393)	＋	埴生中	(179)	＝	572

※数字は児童・生徒数【平成18年度学校基本調査より】

もちろん，こういった事態は本市だけでなく，全国的な傾向にあるもので，国もその対策に数々の施策を行っていることはみなさんもご存じのことと思います。しかし，国にばかり頼らずに市独自の取組みをはじめなければならない時期にきているのではないかと焦りにも似た思いが今の私にはあります。財政が苦しい中，確かに柔軟に対応できる余裕はありませんが，お金がないことを理由に先送りしてはいけない課題の一つではないかと頭を悩ませているところです。

目先の苦しさを言い訳にせず，将来への方向づけが必要な時

すべての判断基準がお金（＝財政）ありきとなっている中で，確かに全体の調和をはかることも大切でしょうが，苦しいときだからこそ，たとえ小さな事業でも立ち上げていく勇気，決断が必要だと最近は考えるようになっています。今年はクリアしなければならない課題も山積みですが，現状にばかりとらわれていては，将来に大きな後悔を残すことになるのではないか，そのためには夢を持つだけでなく，小さい卵であっても産み落としていく努力が必要な時なのではないかと思うのです。たとえ暗いトンネルの中でその卵を温めることになろうとも，卵を産まなければ，ヒヨコは産まれないわけですし，親鳥まで成長することもないのですから。

平成19年度予算案の策定作業もこれから最終的な詰めの作業がはじまります。少子化問題に限らず，目先の苦しさを言い訳にするのではなく，たとえ道を模索することになろうとも，将来への方向づけが必要な課題を見極める判断力をもたなければと，責任の大きさをひしひしと感じているところです。

対話の日

※いずれの会場も19:00から

1月23日(火) 本山町自治会館
2月　8日(木) 小埴生公会堂
2月22日(木) 沖中川六十番自治会館